

サーミの血

11月20日（日）、イーグレひめじのあいめっせホールにて、国際理解映画上映会を開催しました。今回の映画は「サーミの血」です。10代から70代以上の一般市民約100名が参加しました。



(c) 2016 NORDISK FILM PRODUCTION

【あらすじ】

1930年代、スウェーデン北部のラップランドで暮らす先住民族、サーミ人は差別的な扱いを受けていた。サーミ語を禁じられた寄宿学校に通う少女エレ・マリヤは成績も良く進学を望んだが、教師は「あなたたちの脳は文明に適応できない」と告げる。

そんなある日、エレはスウェーデン人のふりをして忍び込んだ夏祭りで都会的な少年ニクラスと出会い恋に落ちる。トナカイを飼いテントで暮らす生活から何とか抜け出したいと思っていたエレは、彼を頼って街に出た――。

参加者のみなさんからは、「北欧にも人種差別があるということを知った」「自分が子の少女だったらどうするか考えた」「主人公のその後が気になる」などの感想が寄せられました。



国際理解映画上映会は、市民のみなさんに世界の様々な問題や課題について考える機会を提供するため、年に1度開催しています。次回の上映会をお楽しみに！